



## — 新型コロナウイルスに立ち向かう —

ひょうごかぞくねっと会長 由岐 透



中国武漢市を「震源地」とする新型コロナウイルス肺炎が猛威をふるっています。軽症者や無症状の感染者も感染を広げるのが新型の特徴で、感染の連鎖を食い止めるのは難しい。現代社会が経済

を優先し、グローバル化を推し進める以上、拡大を止めることはできません。

戦後日本が保持してきた民主主義が窒息する可能性が大きくなりました。民主主義の基盤は国民主権と弱者救済ですが、感染がさらに拡大して医療崩壊が起きれば、究極のトリアージ（弱者切り捨て）が社会全般で恒常化します。障害者、子ども、お年寄り等の社会的弱者救済はどのようにして対処するのか危惧されます。

人間社会においては許容範囲内で迷惑をかけたり、かけられたりが当たり前だろう。この許容範囲がいかに大きいかで社会の成熟度が計られると思いますが、ここ20年ほどで蔓延した「新自由主義経済」なる代物が、本来あるべき「人の心」まで蝕んでいると思われま

す。今年1年は新型コロナに明け、暮れた年でありました。「ひょうごかぞくねっと」は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、6月の評議員会は書面決議となり、理事会、正副会長会を行うことができませんでした。昨年9月に出版された「地域共生ホーム」の勉強会、研

修等を行うことができませんでした。誠に申し訳なく思っています。

現在、組織はあるが活動できていない、開店休業状態にあります。「ひょうごかぞくねっと」ではコロナウイルスに感染すれば死に至る可能性のある会員が沢山います。会員だけでなく、私たちには障害者施設の集団感染を防止しなければならない使命があります。利用者、支援職員を感染から守るために家族会の中止や面会ができず、利用者、家族が寂しい想いをしていると思いますが、感染防止に細心の注意を払い、ポストコロナに備えて力を蓄えておく必要があります。

菅義偉政権が発足して3か月になります。当初7割もあった内閣支持率は、4割台に急落。学術会議任命拒否問題、日本学術会議の会員任命拒否は、一部の科学者の問題ではなく、全ての国民にとって重大な問題です。これは遠い雲の上の話ではなく、障害福祉に関わる私たちに身近な問題として捉える必要があります。菅首相はめざす社会像を「自助・共助・公助」とし、「まずは自分でできることは自分で」と自己責任論を強調し続けています。「まず自助」を掲げることに私は怒りをおぼえます。自助・自立とは「支えを受けずに生きること」ではなく「安心して生きるための支えを持つこと」だと思います。菅政権のコロナ対応での無為無策と逆行は「自己責任」押し付けの立場を示しています。

集まることが難しい昨今、ひょうごかぞくねっとでは、研修会や意見交換・情報交換が行えていませんが、今回のたより 49 号では、各地区よりコロナ禍の中での施設の様子やご家族の想いを書いていただきました。今後またよりにて情報を発信していきたいと思っておりますので、皆様のお声をかぞくねっとにお寄せください。

## 西・中播磨かぞくねっと

## 『協和学園の取り組み』

協和学園保護者会 会長 中本 津知宏 氏

社会福祉法人もみじ会は、たつの市・佐用町にあり、利用者は 270 名、職員は 150 名が勤務され毎日大変お世話になっております。全施設(協和学園・栗の木荘・三原ホーム・メイプル)で利用者は「ひょうごかぞくねっと」に加入しています。その中で協和学園(利用者 88 名)はたつの市新宮町にあり、環境の良いところに立地されています(法人内で作っている菓子工房メイプルのパンも好評です)。入所、通所部、グループホームがあり施設では人の出入りも多く、今回の新型コロナウイルス感染リスクも高く、大変難しい舵取りを強いられています。利用者・職員共に外部との交流を制限する等、大変苦勞しながら感染者を出さない取り組みをされている施設に大変感謝しています。

11 月には、4 ヶ月ぶりに保護者会を開催しました。参加者(保護者 50~60 名)が多いため施設と話し合い、感染対策のため 3 グループに分けて順番に短時間で保護者会、面会を行いました。利用者も久しぶりに保護者に会えてとても嬉しそうな顔をしていました。保護者も今までは毎月利用者に会えていましたが、コロナ禍で会えなくなり心配しています。毎年行っている利用者が楽しみにしている保護者会行事(施設と共催)の三者交流会、スポーツ交流会(参加者 各 約 200 名)夕涼み会、今年は出来ませんでしたので利用者も寂しい思いをしていると思います。

そこで保護者から、施設内で行っている催しを「何らかの形でサポートできないか」との意見があり、費用の一部を保護者会より負担して、行事は施設にお願いしています。10 月は秋祭りで外部よりたこ焼き屋さんを、11 月はまねき食品さんに来てもらい、「えきそば」の提供、12 月はクリスマスプレゼントを利用者全員に贈る予定です。行事は三密を避けるため利用者をグループに分けて行っているそうです(写真は秋祭りの様子)。

コロナ禍でなかなか思うようにいきませんが、今出来ることをしていきたいと思っております。全施連より出版された「地域共生ホーム～知的障害のある人のこれからの住まいと暮らし～」の本を多くの保護者が購入して勉強されています。今、新型コロナウイルスの感染が県内で拡大しています。職員と保護者が一丸となって施設に新型コロナウイルスを持ち込まないようにしなければなりません。そして何が起ころうとも、施設と保護者会は利用者のために手を取り合い協力していく、それが大切だと思います。

施設での秋祭りの様子



## 但馬・丹波かぞくねっと

## 『コロナ禍に於ける対応について』

さつき福社会保護者会 会長 上田 浩 氏

新型コロナウイルス感染症拡大の第三派が押し寄せています。

琴弾の丘では、二月上旬にノロウイルス患者が発生し、外部との接触を制限していましたが、ノロが落ち着いたときに新型コロナ感染が全国で発生しました。そのため、引き続き面会制限が何か月も続きました。施設の協力でリモート面会ができるようになり、保護者の方々も少しは安心されたのではないかと思います。寂しさは変わりません。楽しみにしていた春と秋のバス旅行、夏祭りなどが全て中止になり、皆さん

口にこそ出ませんがストレスがかなり溜まっていたことでしょう。バス旅行に代わる外出ができないかと模索し、事業所が個別に蜜を避けながら、レクリエーションをして頂き、利用者も楽しかったことと思います。

このままでは、年末年始も家族のもとに帰省できないのではないかと心配されます。防止策を講じて施設との連携をとりながら今後も活動していきたいと思っております。

保護者会の活動においても、本年度は役員改選の年で、総会において皆さんの承認を受けるべきでした



が、総会は書面決議となり顔を合わす機会がなくなりました。例年秋に予定している奉仕作業も日程を変更しながら、第二派と第三派の間に行うことができました。久しぶりに再会し、皆さんホッとされたことと思います。一刻も早く新型コロナウイルスの終息を願うばかりであります。



琴弾の丘秋祭りの様子

但馬・丹波かぞくねっと 春日育成苑 売店始めました 春日育成苑広報誌「はーとふる10月号」より

コロナ禍で外出ができない利用者のために、少しでもお店の雰囲気味わってほしいと、苑内で売店を開店されました。ジュースやお菓子、パンやアイスクリームの販売に、久しぶりの買い物気分を楽しみ、イートインスペースで選ばれたものを召し上がられ、笑顔がたくさん見受けられたそうです。



こうべかぞくねっと

『剛志と共に』 神戸市立 ワークセンターいわや保護者 出来 竝江 氏

神戸市立ワークセンターいわやは、東部在宅障害者福祉センター内にある通所施設です。実施事業は、生活介護(定員60名)、就労支援B型(定員10名)となっています。最寄駅のJR灘駅から5分という好条件の施設です。そこで息子剛志(47歳)は、現在生活介護の支援を受けております。

開所(平成5年4月)以来、元気に通っていたのですが、今年に入り通所を狂わす事態が起きました。ご存知の新型コロナウイルス発生です。そこで感染を憂い私の判断で4月15日から5月6日(祝日あり)の間、施設を休みました。剛志にすれば何故休むのか理解できなかつたと思います。5月の連休明けに「剛志、いわやに行こうか。」と声掛けするとにっこり。やっぱりワークセンターいわやに行きたかったのです。それから休むことなく現在に至っております。

ワークセンターいわやでは、コロナ禍により、利用者が施設内外でのイベント縮小で沈みがちの中、ゲーム大会を開催してくださいました。的あて、ボール投げ等工夫したゲームを利用者さんは楽しみました。これはほんの一例ですが、先生方にはいろいろご苦労いただいております。本当にありがたく思っています。

ワークセンターいわや保護者会の動きですが、本年度については、役員会は毎月開催し、保護者会については、必要に応じ開催することになっております。毎年行っています新年会、研修等行事は、今年は取りやめとなりました。

保護者会では、施設長から施設での利用者の行事等を聞くことができ、また保護者の意見・希望等を発言できる良い機会なのに回数が減り残念です。新年会、研修等行事が取りやめとなった為、行事予算については、何らかの形で会員に還元することになりました。

先日友人が「こんな状況いつまで続くのかなあ。」とつぶやきました。本当にそう思います。でも仕方がない、こんな状況の中でも前を向いて剛志と共に・・・



阪神  
かぞく  
ねっと

## 『新型コロナウイルスに対して』

社会福祉法人尼崎武庫川園 松の園  
施設長 葛西 裕子 氏

気づけば 2020 年も残りわずかとなりました。(11 月 30 日現在)今年是世界中誰もが経験したことがない大変な年です。コロナ禍の中でご利用者やご家族には我慢を繰り返しお願いすることになり、申し訳なく思うことが何度もありました。ですが、ご家族も施設職員も思いは同じです！ご利用者の生活を守り、笑顔の絶えない暮らしが送れるよう、知恵を出し合い工夫を重ねます。これまでも様々な事柄に遭遇するたび、私たちは自身の心を励ましながら果敢に対応してきました。「ご利用者の豊かな人生を創造していく」のだと、職員は揺るぎない気持ちを持っています。

### 松の園が感染拡大防止のために取り組んでいること

○居室・作業場：早い段階で二人部屋には全てパーティションを入れ、飛沫感染を防ぎます。もちろん採光を確保するため、上部は透明にしています(写真①)。日中は主に生産活動を行いますので、こちらにもパーティションを入れています(写真②)。広々とした空間なので、閉塞感はありません。



写真①



写真②

○食事：広い食堂なので、対面で食事をとらないようにしています(写真③)。おしゃべりは控えめに。食事後テーブル、椅子、床を消毒します。



写真③

○遊び：一泊旅行、遠足、毎月の外食、夜間外出、ボーリング大会、カラオケ大会、恒例だった「楽しいこと」の多くができなくなりました。だからこそ出来ることを探して、出来るように工夫して実施します。例えば、毎月十分に感染対策(衛生・密・換気を配慮)をしたうえでのバーベキューパーティー、毎週少人数で季節感あふれるスイーツ作り、暖かく晴れた日には屋上でパン食い競争など。新作映画もいつでも上映(プロジェクター使用)しています。



のびのび公園で



屋上でパン食い競争



スイーツ作り



松の園マーケット

○ご家族：兵庫県や西宮市の状況をみながらご家庭には毎月「守っていただきたいこと」の文書を配布しています。面会や帰宅、外出はその時々々の行政判断をもとに法人で統一した対応をいたします。ご不便をおかけしているのですが、保護者会はいつも施設のことを気にかけてくださり、「何かお手伝いができることはありませんか」と声をかけてくださいます。ご寄付を何度もいただき、施設の在り方にご理解とご協力をいただけることを、大変ありがたく心強く思っています。

○そのほかに

- ・お掃除、消毒の専属スタッフが隅々まで清潔を保っています。
- ・マスクや手袋、消毒液など様々な衛生用品は十分に備蓄できています。
- ・理学療法士主導で、身体を動かすことをしっかり考えています。
- ・歯科衛生士による口腔ケアや精神科、耳鼻科、内科の往診は継続しています。特に口腔ケアは万病のもとである歯周病予防のためにも大切なことです。
- ・全職種のスタッフがそれぞれの立場からご利用者を守り、支援し、豊かな生活を送れるよう協力しあっています。

人とのつながり方が多様化した年でもありました。オンラインでの面会を推奨したり、フェイスシールド越しの会話であったり、抱きしめることができなかつたり、どのような形であろうと心を通わせることのすばらしさを改めて感じる事ができたのではないのでしょうか。心身ともに負担の多い状況ですが、だからこそ、心も体も健康であり続けることを大切にしていきたいと思っています。

【編集後記】 スペイン風邪大流行時の政府の対応と対策の甘さを鋭く突いた与謝野晶子の評論が今話題になっていますが、100年経っても国の政策は同じことを繰り返しています。与謝野さんはあの世で嘆いているのではないのでしょうか。(広報委員・佐山)